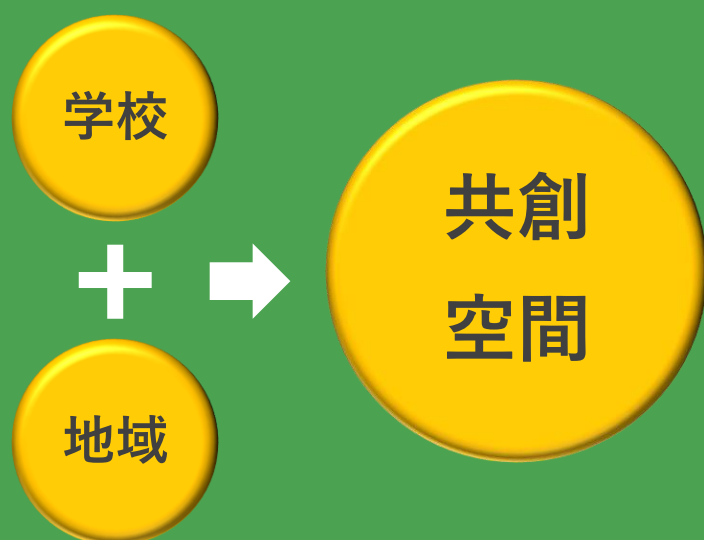


地域とともにある
学校施設づくり



学びの場を拠点とした 学校と地域の「共創空間」と「地域コミュニティ」の創出

これまで学校教育は、学校施設の中での学びを中心としてきましたが、これからは、地域や社会の人との交流や協働の中で、現実社会での課題と向き合いながら、探究的な学びを実践していく「拡張された学校づくり」が重要になってきます。このため、学校自身が意識改革を図り、一層、地域に開かれた学校づくりを進めるとともに、施設整備の面からは、児童・生徒が容易に外の社会との関係を構築できる空間づくりが求められます。

学校施設に地域の公共施設の機能を併せて整備することで、施設の高機能化とともに公共資産の最適化を図ることができます。例えば、学校施設の整備と一体的に、図書館やホール、スタジオ等を地域の施設として高機能化して整備し、あるいは学校に標準的に整備されているプールや運動場を地域に開かれた区民施設として整備し、学校と地域が共用することも考えられます。

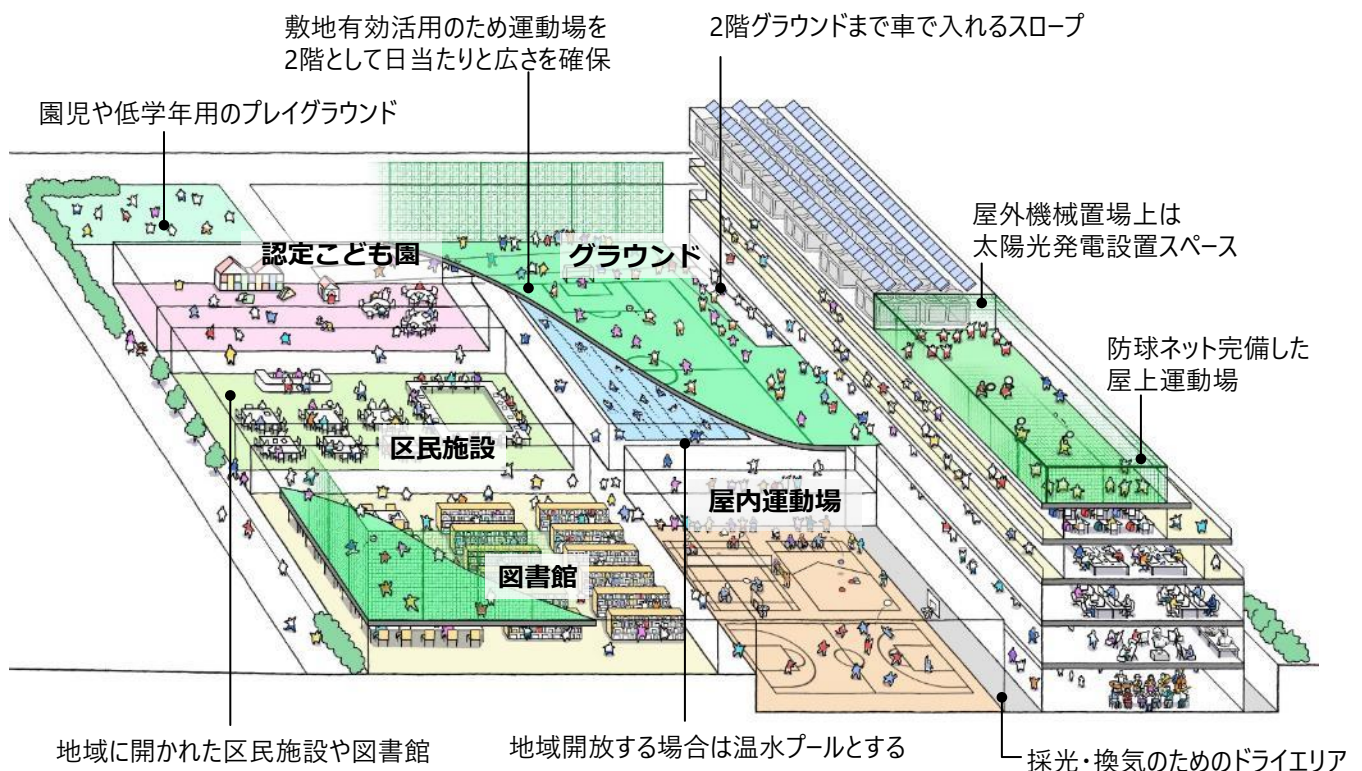
また、学校施設と他の公共施設等との複合化は、児童・生徒を含めた地域住民同士の交流の機会を創出したり、学校施設との併設という特徴を生かすことで、児童・生徒の多様な学習形態や体験活動を可能にし、学校生活を通して課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習、いわゆる「アクティブラーニング」など、学びを深く豊かにすることを促す施設環境づくりの一つの手法としても期待されます。

さらに、地域にとっても生涯学習の場となるとともに、伝統文化や行事の継承などを通して、地域のコミュニティの形成にも寄与するほか、様々な人材が集まるという特徴を生かし、学校運営への支援が行われることなども期待できます。

このように、学校施設を含めた公共施設を地域の施設として活用することで、整備費用の縮減や利用率の向上のほか、地域との連携による教育上の効果、施設管理の教職員の負担軽減、維持管理コストの縮減等も期待できます。

なお、学校施設を地域で利用する場合は、開放エリアをゾーニングし、教育・地域それぞれで活用するエリアを明確に区分するなどの防犯上の配慮が必要です。

渋谷区学校施設長寿命化計画 3地域とともにある学校施設づくり からの抜粋



地域とともにある複合化した学校施設の一例 イメージスケッチ

地域の人づくりや魅力向上のための基盤となる学校施設



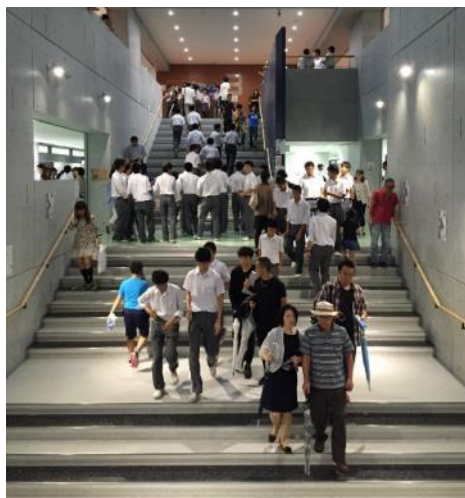
学校内のホールを地域にも開放
港区立白金の丘学園



ホール脇には地域住民も使えるラウンジを併設
港区立白金の丘学園



学校図書館を地域に開放



地域と学校の交流の場

地域にとって、もっとも身近なスポーツの場となる学校体育施設



地域に開放する屋内プール
港区立芝浦小学校・幼稚園

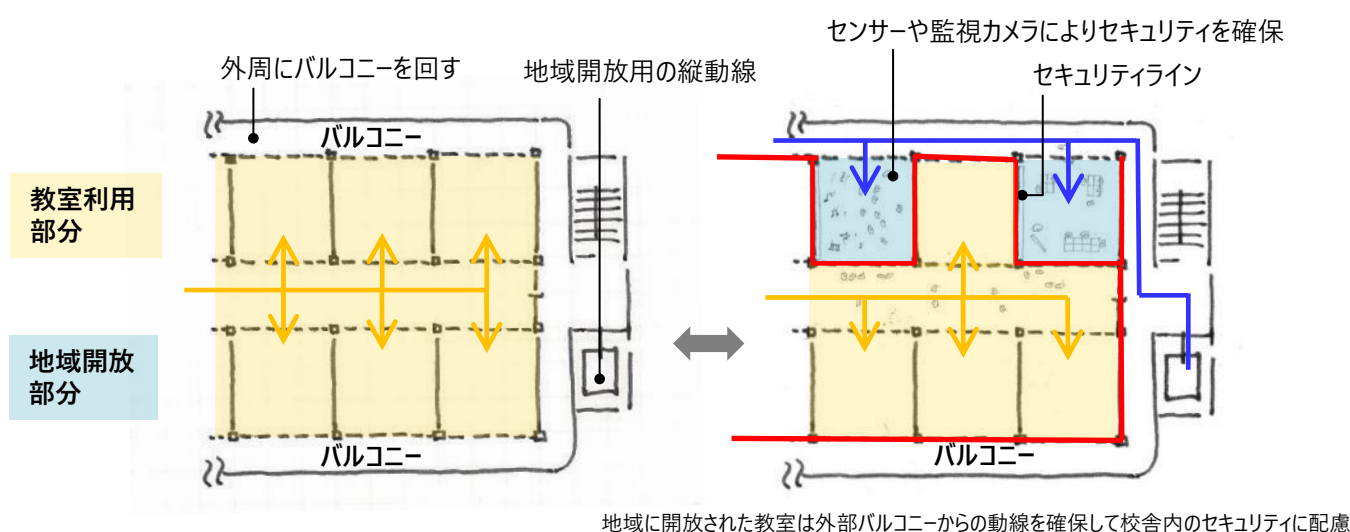


学校施設開放の活動写真

児童・生徒、地域住民にとって多様な学習・活動環境を創出① ～教室を地域にも開放し、児童・生徒と多様な世代との交流を促す環境を整備～

セキュリティを確保した上で教室を有効活用し、地域にも開放

- 平日の日中や夜間・休日の使用していない教室（教室や特別教室）を地域に開放し、その活動を児童・生徒が目にすることで、新たな学びや交流を促す環境をつくる。
- 例えば、屋外バルコニーを使って独立した地域開放の動線を確保し、廊下と教室の施錠管理を行うことで児童・生徒の防犯上の安全に十分に配慮する。また、センサーや電気錠、監視カメラ等の機械警備の設置を検討する。
- 教室内の児童・生徒や教員の備品のセキュリティを工夫する（ロッカー前の扉、鍵付きロッカー、移動式ロッカー空間の有効活用）他、教室内の児童・生徒の個人情報の漏洩に注意する。



セキュリティを確保しつつ、児童・生徒から活動が見えてコミュニケーションがとれる風景 イメージスケッチ

児童・生徒、地域住民にとって多様な学習・活動環境を創出② ～施設機能の高機能化・多機能化による新たな地域コミュニティの拠点を整備～

区民施設と地域開放ゾーンを併せてつくる地域コミュニティの場

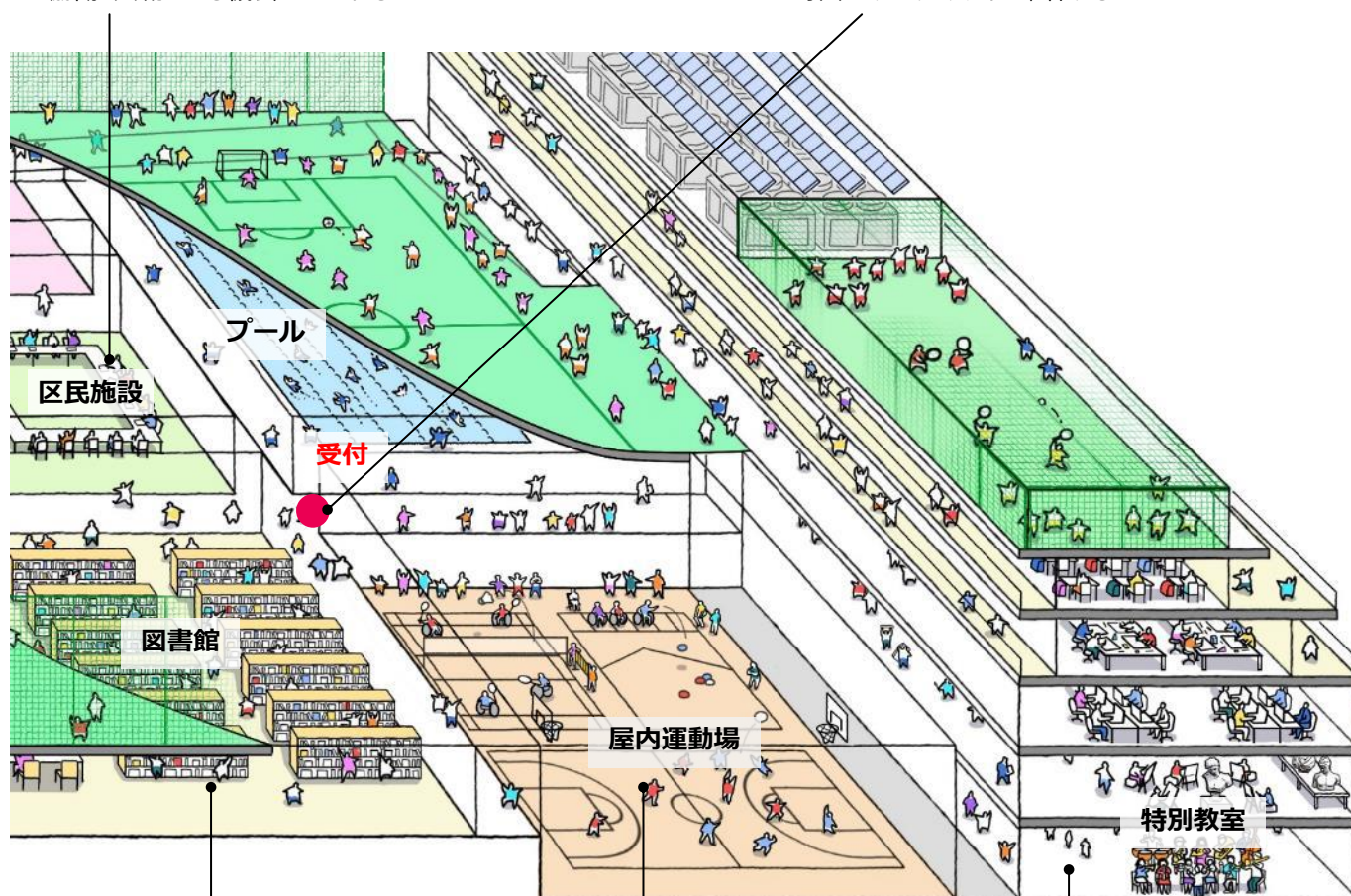
- 学校施設とその他の区民施設を複合化する場合は、地域開放ゾーン（運動施設、多目的室、ランチルーム、特別教室等）と隣接させ、兼用の利用を図る。利用に当たっては学校利用を優先する。
- 区民施設は、児童・生徒から見える位置に設け、新たな学びへの興味を引き出す空間づくりとする。
- 区民施設や地域開放ゾーンへの動線を学校への動線と明確に分離し、学校運営上支障がない計画とする。
- 地域開放ゾーンの利用は防犯上、必ず管理室の前（受付）を経由し対面で受付を行う動線計画とする。

【複合施設での学校の一例】

区民施設との複合化

会議室等を共有することで、地域活動と協働・共創できる機会が生まれる

区民施設と学校施設との間に受付を設け対面でのセキュリティを確保する



図書館との複合化

蔵書の共有により日常的に深く広がりのある学びに触れ、多様な世代の同じ趣味を持つコミュニティが生まれる

屋内運動場、プールの地域開放

市民コーチの創出や、競技の質の向上を目で見て学ぶ環境をつくる

特別教室の地域開放

地域住民の活動に身近に触れることで、児童・生徒の興味を誘発する

複合化することで協働・共創の場となる学校のイメージ

地域の避難所としての防災機能の強化①

～敷地内にアーケードを設置し、『まちの広場』として活用～

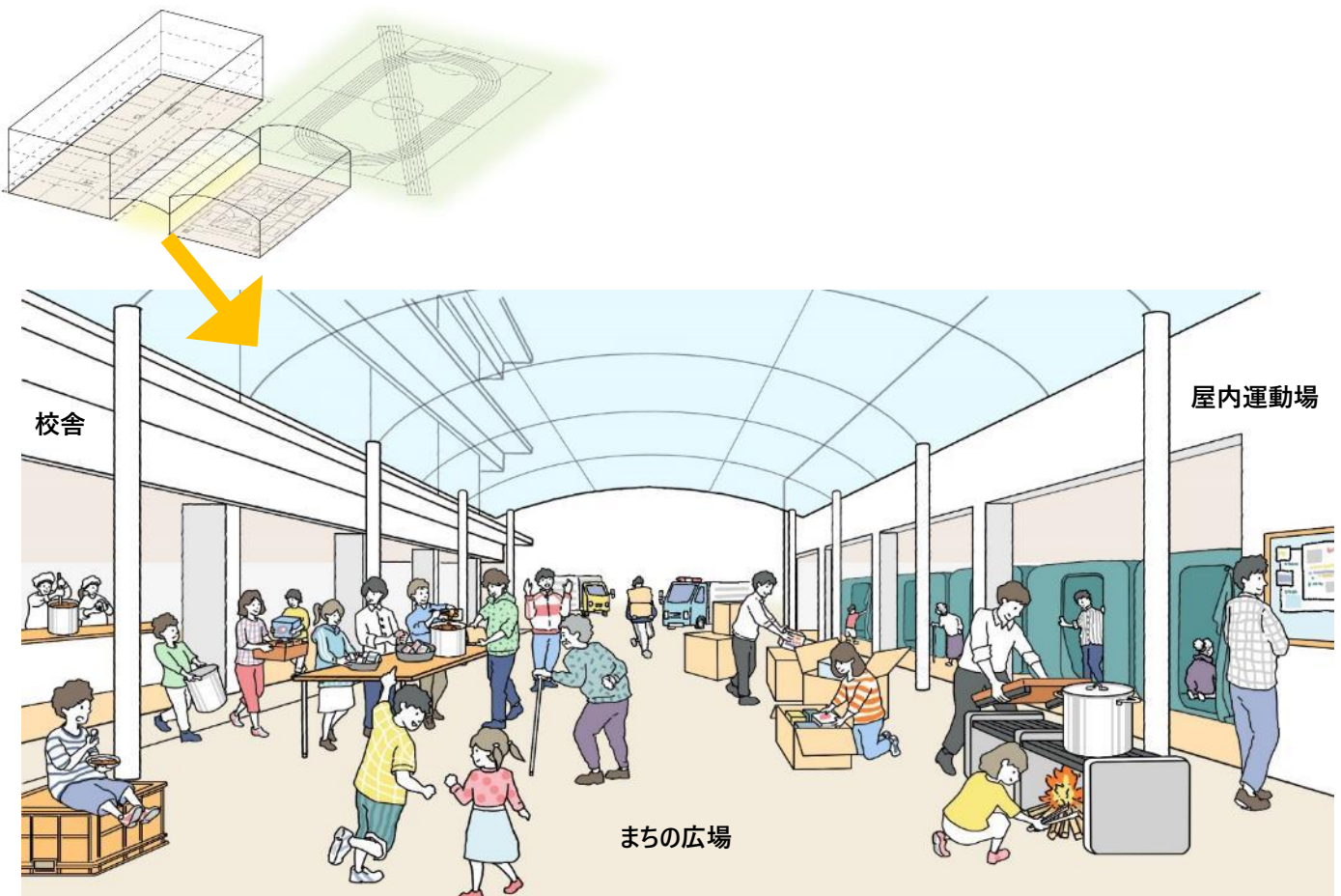
アーケードを『まちの広場』として、地域交流や防災イベントに活用する

- 校舎と屋内運動場の間にアーチ屋根をかけ、悪天候から守られるアーケードとして活用する。
- アーケードは『まちの広場』として地域住民と学校をつなぐ場となる。
- 土休日に地域イベントを実施する等、地域住民の憩いの場として機能する。
- いざという時に備えるため、学校と地域が協働で防災イベントを実行する。

学校施設は、災害時における地域の避難所として重要な役割を担っており、その役割を十分に果たしていくためにも、避難所としての防災機能を一層強化していくことが必要です。トイレや備蓄倉庫、情報通信設備、非常用電力等の確保を図るとともに、避難所機能を前提としたレイアウトやセキュリティの確保、プライバシーへの配慮についても考慮することが重要です。また、障がい者に配慮したトイレやエレベーターの設置等、ユニバーサルデザインの採用やバリアフリー化を行い、利用者すべてに優しい学校施設としていくことが必要です。

建物内部だけでなく、建物間や駐車場から建物までの経路等も含めて学校内の円滑な移動が確保できるようバリアフリー化を目指すことも重要です。

渋谷区学校施設長寿命化計画 1 安全性の確保 からの抜粋



まちの広場で防災訓練中のイメージスケッチ

地域の避難所としての防災機能の強化②

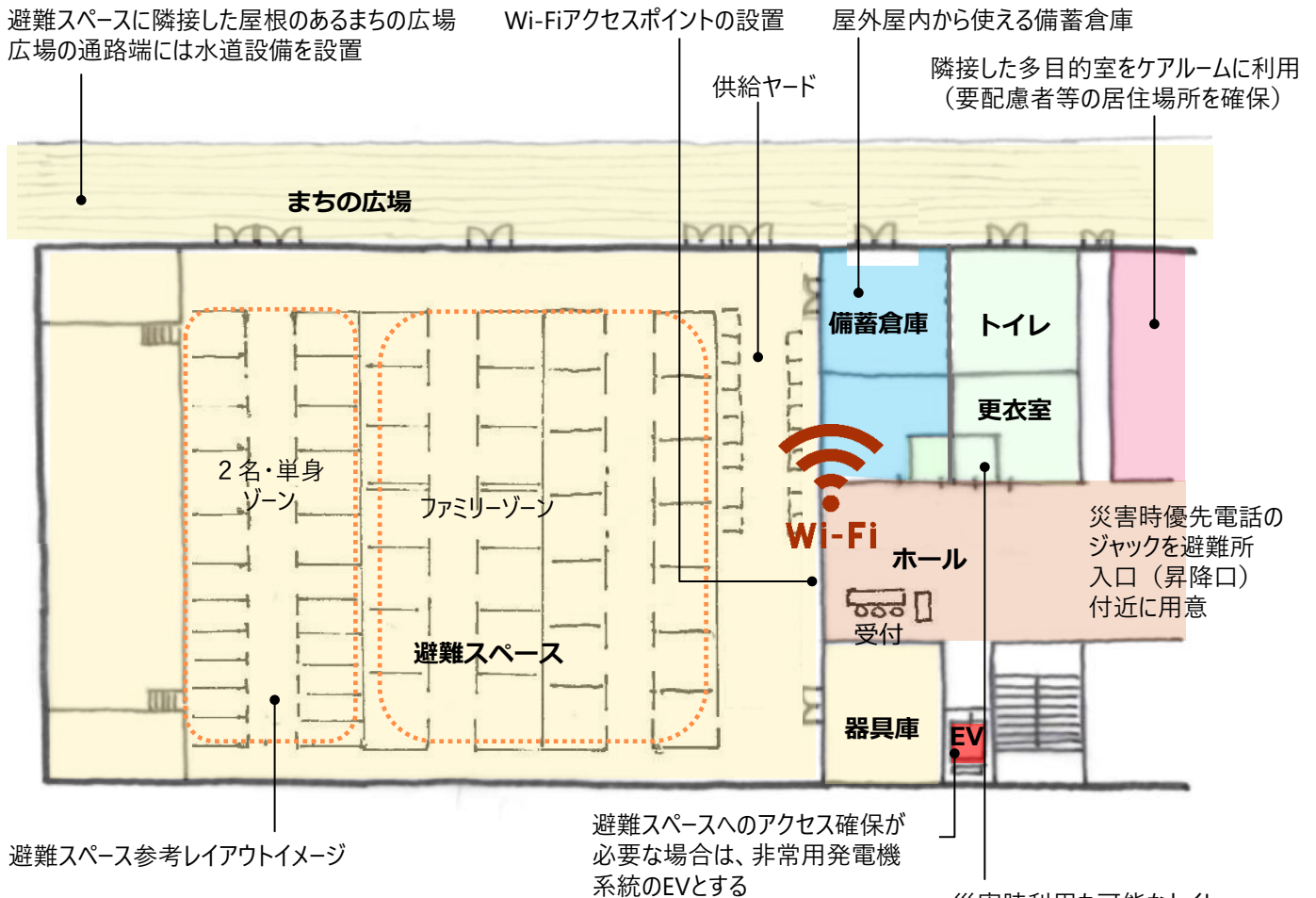
～避難所運営を想定した機能と居住性に配慮した施設整備～

避難所運営に必要な機能とレイアウトを整備

良好な避難生活を送れるよう、換気や採光等に配慮

特別な配慮が必要な人のためのスペース確保と施設全体のバリアフリー化

- 避難スペースにおける換気や採光を確保し、冷暖房効率を高めるための断熱性に配慮する。また、Wi-Fi等の通信設備を設ける。
- 避難スペースや備蓄倉庫（学校用・避難者用）の広さは個別の状況に応じて検討する。
- 避難スペースとなる屋内運動場と屋外広場・トイレ・更衣室等を隣接させる。また、要配慮者等のケアルームとして使用できる部屋を検討する。
- 災害時の動線やトイレ等について、バリアフリーに配慮する。
- 学校の活動を早期に再開するため、避難者エリアと学校の活動エリアを明確に区分できるようにする。



避難スペース参考レイアウトイメージ



パーティション等によるプライバシー配慮



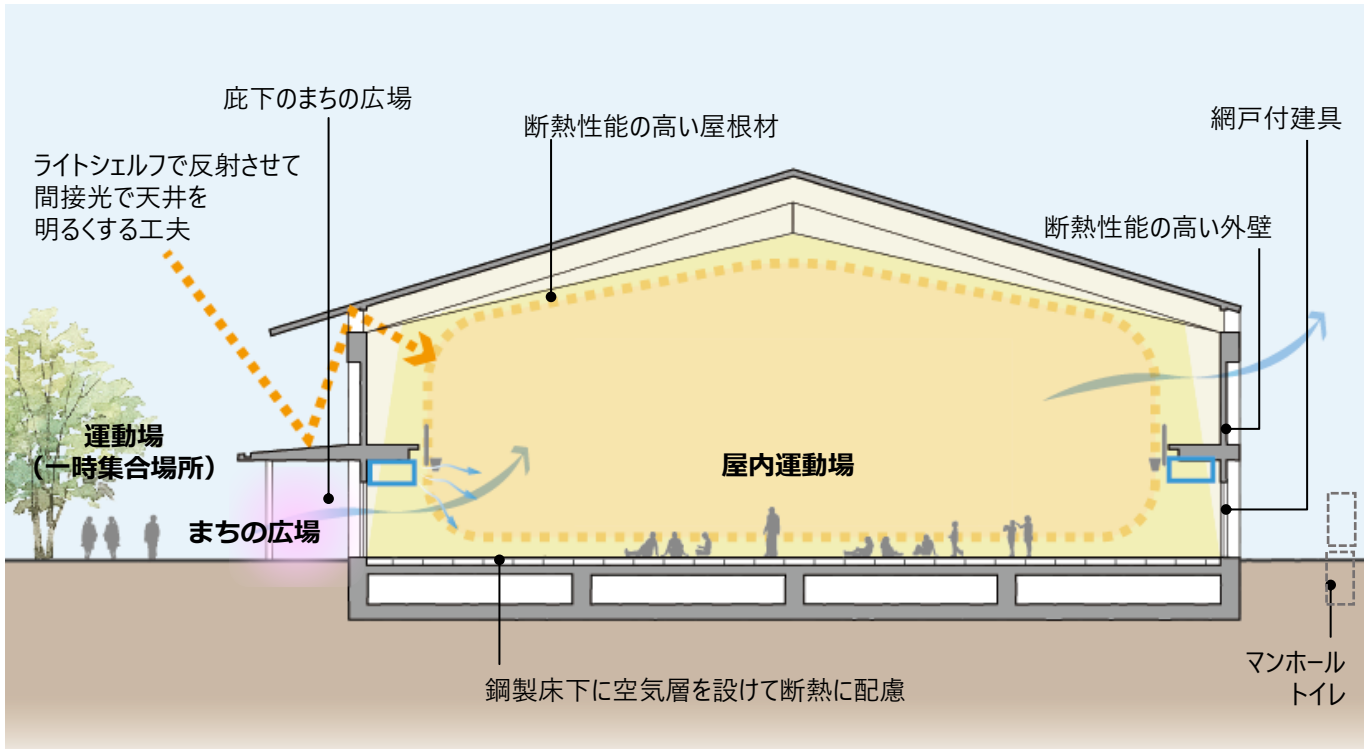
マンホールトイレ等による非常用トイレの確保

災害時利用も可能なトイレ
オストメイト+車いす対応の
多機能トイレ整備
屋外・屋内・更衣室から利用可能

避難所となった際の屋内運動場の工夫 イメージスケッチ

避難所の生活環境に配慮した屋内運動場の計画

屋内運動場が地上の場合のイメージ



屋内運動場が半地下の場合のイメージ

